

令和 5 年度活動報告

令和 5 年 1 2 月 2 1 日（木）、七ヶ浜町中央公民館を会場に、『令和 5 年度 宮城東部地域自立支援協議会 全体会』を開催し、各部会やネットワーク会等の活動を以下の資料を基にご報告いたしました。

【目次】

1. 地域生活支援拠点等運営プロジェクト	P 1
2. 家族等支援ネットワーク身体分会および知的分会	P 2
3. 家族等支援ネットワーク精神分会	P 3
4. きょうだい児支援ネットワーク	P 4
5. 相談支援部会	P 5
6. 就労支援ネットワーク会	P 6
7. 精神地域包括ケア検討会	P 7～9
8. 障害者差別解消部会	P 10

令和5年度 宮城東部地域自立支援協議会 地域生活支援拠点等運営プロジェクト ダイジェスト

発行：令和5年12月

平成29年度より開始した「地域生活支援拠点等事業」について、事業実績の共有および機能強化に向けた協議を行うプロジェクトです。令和5年度は8/10（木）に会議を実施し、緊急ショート事業の実績の報告や、懸案となっていた医ケアが必要な方たちへの支援体制の構築に向けた取り組みの報告と協議を行いました。第2回の会議は年度末に開催予定となっています。

「緊急SS受け皿拡大」の推進

令和4年度末より「緊急時の受け入れへの参画」について、短期入所事業所（さわおとの森運営の2事業所を除く5事業所）への要請活動を進めてきました。結果定員の空いている範囲などの条件はあるものの、全ての事業所が相談に乗っていただけるというお返事をいただきました。

今後各事業所と自治体間の契約等を進め、令和6年度より運用を開始します。

《協力を表明いただいた事業所》

- * あすなろ
- * 杏友園
- * 松の実
- * 僕の家私の家
- * ソーシャルインクルーホーム

緊急支援の実績報告

令和4年度の緊急支援の実績を報告いたしました。

登録推進の流れは定着し、常にふきのとうにケースが上がってきています。

緊急ショートについて、令和4年度は14人に17回、延べ66日の受け入れを行いました。1回あたりの受け入れ日数は、事前に備えて相談している方ほど短く済むということもわかってきました。緊急事態の内容としては「家族の体調不良」が最も多く、次に家族親戚等の「葬祭」でした。

医療的ケア実態調査を行いました

令和4年度のプロジェクト会議で「医ケアを必要としている方々への支援体制の構築が進んでいない」ことについて改めて指摘がなされたことから、今年度4月から生活実態についての調査を行いました。

- * 調査方法： 対面聞き取り ※担当：ふきのとう
- * 調査対象： 自治体抽出の37人中、同意の取れた22人
- * 調査内容： 日常生活の実態、緊急時の備え、要望 等

対象者の皆様からいただいたたくさんの意見や困りごとについて、今後のプロジェクト会議の中で議論していきます。

プロジェクトメンバー

- * 佐藤吉永氏（太陽の子多賀城・運営委員）
- * 菅井真悠子氏（しおーも）
- * 下山清子氏（多賀城市手をつなぐ育成会）
- * 好井まり子氏（利府町手をつなぐ親の会）
- * 吉田千恵氏 松田達也氏（杏友園）
- * 伊藤敏和氏（北上の郷）

令和5年度

宮城東部地域自立支援協議会事務局

- 多賀城市（佐藤・福士）
- 塩竈市（小笠原・松村・泉）

* 庶務：地域拠点センターふきのとう

身体分会 ダイジェスト

これまでの取り組みと課題	これからの取り組みと検討事項
■当事者同士の交流の場を設けたい ⇒障害者スポーツを切り口に交流会実施。 やってみての葛藤・・・ ・「楽しかった」という意見 ・イベントの目的化 ・身体に特化した取り組みの限界	■改めて当事者団体及び支援団体からの情報収集を行い、「解決したい地域課題」の把握に努める ⇒ 12/21 全体会の懇談会を活用 ■身体分会として取り組みのできるニーズがあれば取り上げていく ■精神、知的、身体の属性に関わらず横断的に取り組むことも検討

宮城県東部地域自立支援協議会家族等支援ネットワーク身体分会

◎リーダー：杏友園 大山

○メンバー：松島町社協 赤間・高橋 七ヶ浜町健康福祉課 佐々木・野田 ふきのとう 佐野・竹内

令和5年度 宮城東部地域自立支援協議会 家族等支援ネットワーク

知的分会 ダイジェスト

令和5年12月発行

★『知的障害を持つ方たちとそこそご家族の生活に寄り添い、地域に対するご要望を自立支援協議会に吸い上げる』ことをコンセプトに活動しています。

塩釜地区手をつなぐ育成会等連絡会

6月9日（金）と11月15日（水）に開催された「塩釜地区手をつなぐ育成会等連絡会 役員会」に、運営委員の戸部義泰氏と、ふきのとう佐野（11/15のみ）が参加させていただきました。

コロナ禍の長いトンネルからようやく抜け出しつつある今年度、会員の皆さんが楽しみにしておられる対面の行事について、感染対策をしながら再開されている嬉しいお話を伺いました。また、県や全国の育成会との連携の中、研修会等への参加も意欲的に行われている様子も教えていただきました。

地域への要望として、多くの方が関心を寄せている「成年後見等」制度について、障害をお持ちの方々が抱える事情を良く知る地域の支援者が、「法人後見」の形で受任してもらえると心強いとの意見が出され、協議会を通じて関係機関の皆様と共有させていただくこととしました。

七ヶ浜町手をつなぐ親の会 研修会 6/20(火)

昨年度の松島町親の会での研修会に続き、「緊急ショート事業の概要」をテーマに、ふきのとうの竹内がお話をさせていただきました。

2市3町独自の緊急ショート事業が始まって7年目になりますが、これまでに支援した事例の中から学んできたことなどもお伝えしながら、「緊急事態を想定して備えておくことの有効性」について考えていただく機会になりました。

地域の緊急ショートの仕組みについてよくご存じでない方がおられましたら、お声がけくださればお話に行きます。是非ご活用ください。

精神分会 ダイジェスト

発行元：宮城東部地域自立支援協議会 令和5年12月

今年度も精神分会は各地域の家族会へ参加・家族交流会を実施しました！

【ニーズ】

- ・家族会活動に支援者が関わってほしい
- ・家族同士が悩みを共有できる場がほしい

◆今年度の取り組み◆

- ①継続して各圏域の**家族会に参加**した
- ②**家族交流会**を今年度は**2回開催**した

①家族会への参加

- ◆今年度も各圏域の家族会と連絡を取り、参加させていただきました！



＜支援者の声＞

- ・家族の声を直接伺い、家族会の現状を知れる。
- ・抱えている悩みや、ニーズを把握することが出来た。

＜家族の声＞

- ・今後も支援者に参加してほしい。
- ・第三者と繋がる機会をつくることが出来る。

②家族交流会の開催

- ◆今年度は7月28日と11月28日の2回開催し、2市3町のご家族、支援者に参加いただきました！



＜交流会アンケートより＞

- ・高齢の親は、同じことを考えていて、心配していることが分かった。
- ・話を聞いて、色々な方面から物事を考えようと思った。
- ・家族の障害を受け入れてお互い支え合って生活している話が聞けてよかった。
- ・悩んでいるのが自分だけではないと思うと少し気持ちが楽になった。
- ・他の方の対応の仕方等伺えてよかった。



～来年度に向けて～

- ①継続して圏域内の家族会へ参加し、ニーズの把握や、繋がりを強化していく。

- ②家族交流会で出た意見を参考に、当事者や家族、事業所が学びや交流を深めるイベントを企画・開催する。



精神分会メンバー

小笠原・松村・泉（塩竈市）
関内（利府町）
菊地（緑ヶ丘病院）
加藤（藻塩の里）
菊地（けやき）
岩間（コスモスホール）
一岡・大野・鈴木（ふっとわ〜く）
佐野・竹内（ふきのとう）

ダイジェスト版

令和5年度 宮城東部地域自立支援協議会 きょうだい児支援ネットワーク 保護者懇談会を開催

きょうだい児支援ネットワーク
は「宮城県発達障害ペアレント・
メンター事業」を活用し
ました。



< 実施日時・内容 >

●懇談会

- ① 令和5年10月 5日(水) 10時～
【参加者・10名】
- ② 10月26日(水) 10時～
【参加者・6名】

●懇談会 オフ会(今年度初めての試み)

- ③ 令和5年 11月15日(水) 10時～
【参加者・3名】

< 場 所 >

多賀城市中央公民館(文化センター内)

< 内 容 >

- ・ペアレントメンターによる育児体験談
- ・保護者同士の懇談、交流
- ・今年度初めての試み オフ会
- ・保護者同士の交流、おしゃべり会



メンター2名による育児体験談
から始まりました。
皆さん真剣なまなざしで聞いている
姿が印象的でした。



② 懇談会



メンターさんから、子育て中 励まされた
「おすすめの絵本」を紹介していただきました!



① 懇談会



きょうだいは、家族にとって大切な存在だからこそ悩んでしまう思い…。皆さんから沢山の意見が出ていました。

③ オフ会



「オフ会」では、テーマを設定せず日頃感じている話が発展し、共感し合える機会だったようです。

きょうだい児支援ネットワーク 構成メンバー

- ・宮城県立利府支援学校
- ・多賀城市保健福祉部介護・障害福祉課
- ・多賀城市児童発達支援センター 太陽の家
- ・松島町民福祉課
- ・NPO 法人 幸創
- ・放課後等デイサービス かりん
- ・相談支援センター もりのひろば
- ・塩釜市ひまわり園(放課後等デイサービス)
- ・地域拠点センター ふきのとう
- ・宮城県障害児療育支援事業 あとれ

【問い合わせ】

地域拠点センター ふきのとう

TEL: 022-352-1501

【皆さんからの感想を一部ご紹介します】

- ・いろいろな悩みがあって、今日まで来ましたが、障害を持つ親の悩みに共感したなと思いました。障害を持つ親の悩みは障害を持つ親同士だから共感できるので、こういう場がありがたいです。
- ・メンターさんのお話を聞くことができて、ぐっときてしまって涙が出そうになったり元気も頂くことができました。悩みは尽きませんが、他のお母さんたちのお話も聞いて、私だけじゃないな、と改めて感じる事ができました。ありがとうございました。



相談支援部会 ダイジェスト

発行：令和5年12月

相談部会の目的

○ 2市3町内相談支援事業者の 情報共有とネットワークづくり！

気心の知れた顔のわかる関係を土台にして、連携の強化（地域の相談支援体制の充実）を目指します。また活動を通して、互いの考えや支援の方向性を共有することにより、相互に高め合う場ともなっています。

相談部会の内容

（月1回定例開催）

- 国の施策情報等の共有
- 相談支援のノウハウの共有
- 地域のサービス情報を共有
- 自立支援協議会への参画
⇒ 地域づくりのカギ！
- ケースレビューの実施

宮城東部地域の相談支援体制

委託相談事業所

しおーも／北上の郷（塩竈市）
けやき／太陽の家（多賀城市）
松島町社会福祉協議会（松島町）
ふつとわ〜く（七ヶ浜町）
ひまわり／もりのひろば（利府町）

※「基本相談」と「計画作成」をします

計画相談事業所

梯（多賀城市）
りんく／アシスト（松島町）
地域拠点センターふきのとう（利府町）

※サービス利用計画を作成します

基幹相談支援センター

地域拠点センターふきのとう（2市3町）

※圏域内の相談事業所との連携と共働
※より専門的で高度な相談支援の実施
※地域課題へのアプローチ

令和5年度の主なトピックス ⇒ ① 新規参入事業所の紹介、事業案内の時間を多く取りました。

② 資質向上のためのケースレビューやケース検討のあり方について検討しました。

③ 今後もオンライン会議とするか、集合に戻すか、次年度試行を重ねることとしています。

オンライン会議の様子



「誰もが暮らしやすい
2市3町を創造する」

令和5年度 宮城東部地域自立支援協議会

就労支援ネットワーク会 ダイジェスト

令和5年12月

就労ネットワーク会研修会 (5/19・6/16)



昨年度久しぶりに再開した就労ネットワーク会。今年度は昨年実施した参加者アンケートでいただいた意見の中で特に多かった、「人材確保・人材育成」をテーマに研修会を実施しました。

第1回・第2回ともに、石巻市、塩竈市を拠点に事業を展開されている「愛さんさんグループ」の取り組みを、愛さんさん宅食塩釜事業所の佐藤管理者様よりご紹介いただき、その後少人数

のグループに分かれて各法人・事業所が抱える現状や課題についてテーマに沿って話し合い、共有しました。それぞれの法人・事業所での取り組みを共有できたことにより、「さまざまな示唆や刺激を得られた」との感想が聞かれました。

就労ネットワーク会交流会 2023

研修会などの機会を通じて皆さんと知り合えたので、忘年会を兼ねて交流会を開催いたしました。参加者は14人。事業所の抱える課題や、日々の悩ましいことについて飲食を忘れて話し込む姿があちこちで見られました。この関係を土台にして日頃から情報を共有できる関係へと発展していくことが、地域の支援力を引き上げていくことに繋がると信じています。

2023.12.1(金) パブリックハウス多賀城店にて



旨っ!!

今回の交流会の企画より、これまで実施した研修会等に参加いただいた方の中から新たに世話役として3人の方に参画いただきました。それぞれがこのネットワークに期待する熱い思いをお持ちです。もちろん新たな参加も大歓迎。お気軽にお声がけください。

良い支援は良いネットワークから♪

来年度に向けて・・・

研修会でのアンケートで様々な要望をいただきました。世話役の皆様と協議しながら提案させていただきますのでご期待ください。また、常にお忙しい中とは存じますが、スタッフの方の参加についてご配慮いただけると幸いです。

就労ネットワーク会 世話役の皆様

愛さんさんグループ 佐藤氏 植木氏 林田氏
チョコしおがま 米倉氏
ソーシャルビレッジ仙台 米沢氏

事務局：地域拠点センターふきのとう 佐野

宮城東部自立支援協議会精神地域包括ケア検討会 令和5年度活動報告

1. 活動の目的・背景

精神障害を持つ方、精神的な課題も持つ方も地域で安心して生活するための体制整備を図るために、保健・医療・福祉の支援機関による協議の場を、当圏域では宮城東部自立支援協議会の中に設置している。

今年度は精神科医療機関長期入院患者への支援に着目し、「なぜ長期入院の状態が継続しているのか」「どうすれば退院へつながるのか」を考える中で、「どのような地域になれば精神障害者が退院できる地域になるのか、安心して暮らせる地域になるのか」を考えていくこととした。

2. 実施内容

意見交換「ワールドカフェで考えよう！にも包括！」

第1回 長期入院患者の退院が進まない背景について(3事例)

令和5年9月28日(木)午前10時から午前11時45分まで

第2回 精神障害者が安心して暮らせる地域をつくるには

令和5年10月17日(火)午前10時から午前11時45分まで



◎ワールドカフェとは…

「カフェ」のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルメンバーをシャッフルして対話を続けることで、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法。



3. 結果

○出席者 第1回 25名／第2回 24名

○事後アンケートより

- ・開催内容について:「多職種で意見交換、共有ができた」「自由に意見を出しやすい雰囲気だった」「地域の支援者の方々とつながる機会になった」
- ・地域にあったらよいもの、今後の取組について:「今回のような検討の場を継続すること」「当事者の意見を聞く場を設けること」「地域への普及啓発」「居住地支援(箱もの)」等様々な意見が出された。

4. 来年度の取組の方向性

来年度もワールドカフェ方式のグループワークを継続する

⇒管内支援者で柔軟にアイデアを出す機会、支援者同士の連携強化や顔つなぎの場として活用する。

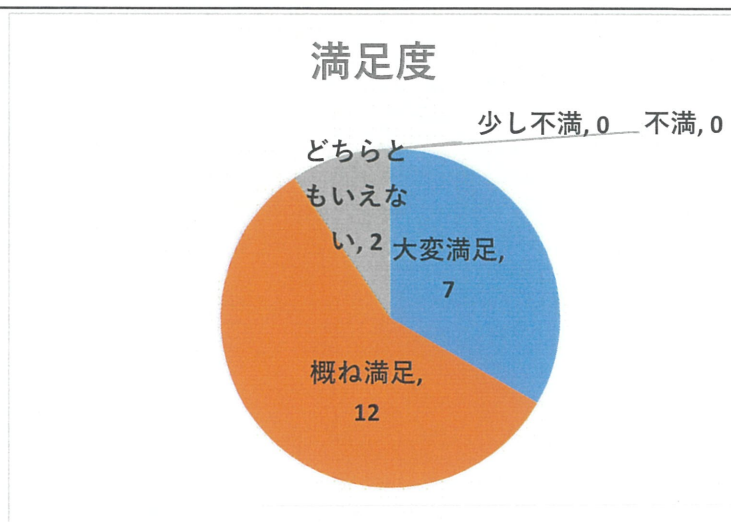
(具体案):地域で暮らす精神障害者の事例の検討、精神障害の普及啓発に向けた具体的な取組の検討、当事者の声を取組へ反映させる方法の検討等

令和5年度精神包括ケア検討会 参加者アンケート

(参加者24人)N=21

1 開催内容について(満足度)

	回答数	割合
1 大変満足	7	33.3%
2 概ね満足	12	57.1%
3 どちらともいえない	2	9.5%
4 少し不満	0	0.0%
5 不満	0	0.0%



(自由記述)

2 開催内容について(満足度の理由)

- ・ まだまだ経験が浅く、知識不足であるため、様々な地域の色々な立場の方からの意見を聞くことの出来る貴重な機会だった。
- ・ 他職種の方から幅広い意見を伺うことができた。
- ・ ワールドカフェおもしろかった。他自治体との関係性づくりができて良かった。
- ・ 1つのことを、他職種で意見交換、共有ができたこと。
- ・ 色々な意見があり、視野が広がった。
- ・ 障害担当、保健担当、相談事業所、医療機関等、支援者が一堂に会して、地域の課題を共有できた。
- ・ 様々な視点から地域に必要な社会資源について意見を聴くことができたから。
- ・ ケース検討や地域資源の検討をワールドカフェ形式で行うことで、ゆったりと参加できたと思います。ありがとうございました。
- ・ 地域の支援者の方々とつながる機会になったため
- ・ 1つのことを、他職種で意見交換、共有ができたこと。
- ・ 1回目は出席できず初めての参加だったので、圏域の方とお会いして直接意見を聴くことが出来たので
- ・ 1グループの時間について、もっと時間があればよかったと思います。今後につながるものにして欲しいです。
- ・ ワールドカフェ形式は自由に意見を出し合える雰囲気だったので、気軽に話すことが出来ました。実現可能かどうかは置いておいて、理想を言い合える場は今後大切だと思います。
- ・ さまざまな立場の人から、この地域についての意見を聞くことができたのはとても参考になったが、今ある資源への否定的な意見もあり複雑な心境であった。
- ・ 同じ課題の検討を通じて、一体感を得た。多くの同業者がいて、大丈夫、何とかなると思えた。
- ・ ワールドカフェ形式でのグループワークは初めての経験でしたが、とてもなごやかな雰囲気でした。話しやすかったので、普通のグループワークより楽しい印象でした。また参加したいと思える時間でした。
- ・ ワールドカフェ形式で話したことで、活発な議論や多くの意見に触れる機会が出来た。

- 精神障害者が安心して生活していける取組等について、個人個人思うことはあるが、ワールドカフェ形式で共有して意見を出し合うことで、方向性が見えてくるので、すごく良い検討会でした。

3「この地域にこれがあつたらいいな」「こんな取組はどうだろう」などの御意見

- このような検討会は、引き続き実施していくと良いと思います。
- 当事者を支える担い手の育成
関係機関(行政、事業所、医療)の連携は力オのみえる関係性で充実していた。地元で安心して生活できる土地や建物は圏域内でもこと足りていないと実感した。行政から事業所への資金支援・人材など課題はあるようだった。
- 他職種連携を深めること
- 当事者の意見を聞く。当事者が退院してくらしてみたいという視点が足りてなかったのも、この視点も盛り込んだ取組が必要だと思いました。
- 安心して暮らせる場所、働ける場所の確保には精神障害者側の視点だけではなく、地域からの視点も大事なので、住民の理解。地域バスの相互利用は検討できる。
- 精神に特化したお祭りみたいなもの(地域の障害への理解を深める機会として)
- 地域の方々への普及啓発が必要だと改めて感じました。
- 住民の理解も必要だと思います。そこへの窓口が1つあればと考えます。
- 規制のないGHの設置。生活基盤が安定しないと安心した生活はできません。低価格の自費ヘルパーサービスがあれば、GHに入らなくても何とか生活できるかもしれません。
- ハコモノだけではなくて、支援者の人材育成も大事なと思います。東寺さんの意見に賛成します。(GHの規制が多すぎるなど。)
- 住む場所の確保というのが、一番の課題と思われる。
- グループホームを増やすことか、自立生活援助の活用が出来る場所を増加することも大切だが、地域住民の精神障害者に対する理解を深める活動が非常に重要だと思います。
- 他職種連携の強化。障害の普及啓発。
- 検討会のとおりです。

4 その他、ご意見、ご感想など

- 非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- 当事者の声を聴くために、SNS等を活用し、意見反映に役立てるという話があり、印象に残った。
圏域単位でできることを1つずつ向き合い、重ねていきたいと思いました。「1人ずつ顔と名前をおぼえていない」「来たら対応する」など、自治体職員の「精神疾患への理解も足りていないと感じた。
- 原点である利用者の声を、どれだけ受容していけるのか。今の制度やあるものをどのように発展させていくのか、課題である。
- 関係機関がつながる機会は重要だと思います。
- 色々と準備などお疲れ様でした。
- 圏域内にはいろいろな強みがあることを、改めて知る機会となりました。
- 対面で話をする機会は貴重だと感じました。

障害者差別解消部会ダイジェスト

発行：令和5年12月

平成28年4月に障害者差別解消法が施行され、当協議会においては、同法における『障害者差別解消地域協議会』の位置付けで、地域での障害者差別を解消するため、これまで研修会等の活動を行ってきました。

障害者差別解消法が変わります！

令和6年4月1日から

合理的配慮の提供が義務化されます！

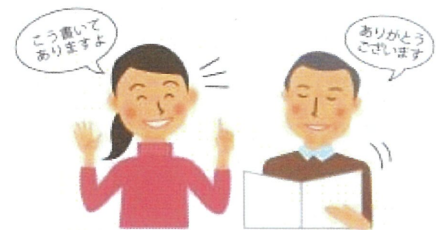
令和3年に障害者差別解消法が改正され、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されました。
障害のある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら共に生きる社会の実現に向け、事業者の皆さまもどのような取組ができるか、このリーフレットを通じて考えていきましょう！

改正後	行政機関等	事業者
不当な差別的取扱い	禁止	禁止
合理的配慮の提供	義務	努力義務 ⇒ 義務

目次

- ・表紙 1
- ・共生社会の実現に向けて 2
- ・合理的配慮の提供とは 4
- ・「合理的配慮」には対話が重要です！ 6
- ・不当な差別的取扱いとは 8
- ・障害のある人へ適切に対応するためのチェックリスト 10
- ・困ったときは 12

<合理的配慮の例>



筆談、読み上げ、手話などを用いる



段差がある場合に、
車椅子利用者に
キャスター上げ等の
補助をする

今年度については、令和6年4月1日から改正障害者差別解消法が施行されることに伴い、個人事業主などを含めた事業者による合理的配慮の提供が義務化されることから、事業者に対する働きかけを進めて行く取り組みについて、協議を行ってきました。

【今年度の取り組み】

令和5年11月 勉強会（当協議会担当者間において、障害者差別解消法の制度等の理解を深める勉強会を開催）

令和6年1月以降 研修会（仙台バリアフリースーツアーセンター等と連携を図り法改正を踏まえた研修会の開催を予定）

障害者差別解消部会

担当：塩竈市・松島町・七ヶ浜町

地域拠点センターふきのとう